平成29年度 第1回青少年クリエイティブセンター運営審議会

日 時：平成29年7月7日（金） 午後6時30分～午後7時30分

場 所：青少年クリエイティブセンター 3階 視聴覚室

議 題：議長及び副議長選出

平成28年度利用状況・事業報告

平成28年度事業総括

その他

出席委員： 上田 裕彦、三宅 友子、矢田 俊也、大原 猛、西川 陽子、
長谷川 淑子、大庭 健、森 ゆみ、狩俣 正雄、上坂 純朗、
前田 都、眞鍋 眞、宮本 美紀

事務局出席者：木戸 誠（地域教育部部長）

落 俊哉（地域教育部次長）

前田 隆男（青少年室長）

尾高 関持（青少年クリエイティブセンター館長）、植田 陽介（同館長代理）、

井崎 健史、笹原 裕司（同主査）、野田 彰人（同係員）

1. 委員の委嘱

2. 事務局あいさつ

3. 事務局職員紹介

4. 議長及び副議長の選任

吹田市立青少年クリエイティブセンター運営審議会規則第2条に基づき、議長及び副議長は互選により選任。議長にA委員、副議長にB委員が選任される。

5. 青少年クリエイティブセンター運営審議会の公開、傍聴について

青少年クリエイティブセンター運営審議会は公開することとし、委員15名のうち過半数の13名が出席しているため、吹田市立青少年クリエイティブセンター運営審議会規則第4条の2に基づき成立していること、本日の傍聴者はいない旨事務局より報告。また、議事録は公開し、発言者はA委員、B委員、事務局など記載する旨が了承された。

6. 議事

A議長

では、議事を進めてまいります。委員の皆様、お手元の次第をご覧ください。案件の2番平成28年度利用状況及び事業報告、3番平成28年度事業総括まで一括して事務局より説明をお願いします。

事務局

では、平成28年度利用者数についてのご報告を事務局から、平成28年度事業報告を事務局からします。

なお、お配りしました資料の右上に、通し番号を付けております。本日ご審議いただく内容につきましては、通し番号に沿って進めさせていただきます。また、失礼かと存じますが、座ったままでご報告します。

では通し番号1、資料1の『平成28年度(2016年度)利用状況』をご覧ください。これは昨年度にどれだけの方が青少年クリエイティブセンターを利用されたかという利用者数の資料となります。平成28年度と平成27年度との比較がしやすいように、数字を併記いたしております。限られた時間ですので、すべての数字を読み上げることはいたしません。どうかご了承ください。

最初に青少年会館利用者数です、青少年会館とは今会議を開いておりますこの建物を指します。上の5段は年齢区分ごとの人数で、普段の日に立ち寄って利用される方、イベント等に参加された方の合計となっております。幼児とは0歳から5歳までの就学前の児童でございます。その幼児が年間で1,691人、小学生が11,710人、中学生が990人、高校生が830人、一般の方の利用が2,443人で行いました。

次に教室・講座への参加者数です。英語教室は延べ530人の参加がありました。ボランティア養成講座ということで実施させていただいている手話教室が129人、工作・折り紙教室が265人、クック・おやつ作りは172人、パソコン教室は494人の参加がありました。

乳幼児向け教室事業は 3 種類ありますが、その合計参加者数は 906 人でした。そして子育て・こころの健康相談につきましては 50 人の方が相談に来られました。枠内に線が引いてあるところはその月に実施がなかったことを示しています。青少年会館利用者の小計は 20,210 人になっております。

続いて体育館の利用者数について報告いたします。幼児の利用は 622 人、小学生の利用が 9,436 人、中学生が 3,248 人、高校生が 2,123 人、一般の方の利用が 3,111 人ございました。

次に体育館で行われているスポーツ教室とサークル活動の年間延べ参加人数でございます。剣道教室は 1,635 人、柔道教室は 383 人、バドミントン教室は 660 人の参加がありました。

続いてサークルです。ソフトバレーが 125 人、バレーボールが 219 人、日本拳法が 831 人の参加がありました。学習支援事業として行っているぐんぐんネットには 231 人の参加がありました。体育館利用者の小計は 22,624 人になっております。

次に運動広場の利用者数でございます。幼児が 5,098 人、小学生が 4,608 人、中学生が 2,363 人、高校生が 1,716 人、一般の方のご利用が 7,787 人ございました。また、サッカーサークルの参加が 1,650 人ありました。運動広場の小計は 23,222 人となっております。

これらの小計を合計いたしました年間利用者数は 66,056 人でございます。以上で私からの平成 28 年度利用状況についての報告を終わらせていただきます。

事務局

次に、資料 2『平成 28 年度（2016 年度）事業報告』より資料 3『平成 28 年度（2016 年度）子育て・こころの健康相談について』まで事務局よりご報告させていただきます。なお、失礼かとは存じますが、座ったままでご報告させていただきます。

では、お手元の資料の次のページ、資料 2『平成 28 年度（2016 年度）事業報告』をご覧ください。

まず、資料の説明をいたします。資料 2 は通し番号 2 から 5 まで全部で 4 ページです。一番左端に大区分があり、その次に小区分、そして事業名と続きます。一番右端のアンケートの有無についてですが、利用者アンケートを実施した事業については「有」と記載しております。

では、改めまして、資料の通し番号 2 をご覧ください。まず、大区分「学習活動の推進」の「体験活動事業」です。

「竹で遊ぼう」です。北千里にある吹田市自然体験交流センター「わくわくの郷」の竹を使い、バウムクーヘン作りに挑戦しました。竹ぼうきや竹ぼうくりなどの竹製の道具を実際に手に取ったり、見たりすることを通じて竹を身近に感じました。

次に「わく♪ドキ！社会見学」です。6 月に京都にあります「コカ・コーラウエスト(株)京都工場」、10 月には「インスタントラーメン発明記念館」を訪問し、身近にある食品が口に入るまでにどのような過程を経ているのかを学びました。

次に「リバーハイク」です。高槻市の摂津峡にて 7 月に行いました。岩場や流れの急な所では、参加者同士互いに協力しあって全員無事にゴールすることができました。

次に「元気きつまつり」です。夏休み明けの 8 月 28 日に実施しました。きもだめしや、おやつと飲み物を提供するカフェ、ゲームコーナーなどを行いました。スタッフに応募した子どもたちを中心に、夏休み期間を通して準備を行い、一つの行事を作りあげる事の難しさや、達成感などを体験しました。

次に「しめ縄づくり」です。「エコおもちゃづくり市民塾」の皆さんに講師をお願いしました。しめ縄の由来をはじめ、季節ごとの伝統行事や昔の生活についても触れることができました。

次に「雪ん子ランド」です。1泊2日で行い、滋賀県にある吹田市立少年自然の家「もくもくの里」へ行きました。雪合戦やそり遊び、かまくら作りなどをすることができました。宿泊の体験を通して、食事や就寝など、子どもたち同士お互い助け合うことの大切さを経験する貴重な機会となりました。

次に「子どもクラブまつり」です。まつりスタッフを募り、子どもたちが中心となって、企画に始まり会議を重ねるなど準備をし、お店だけでなく舞台発表なども練習を重ねました。お店スタッフや舞台発表の参加者は市内の13の小中学校から集り、地域とのつながりや様々な世代のつながりを持つことができました。

次に「てがるにクック・おやつ」です。月に1回行っています。オムライスやお好み焼きなどのおかず作りや、わらびもちやケーキなどのおやつ作りを行いました。

次に裏面、資料の通し番号3ページ目になります。

「野菜づくり・収穫」です。きゅうりやトマト、すいかなどを栽培しました。収穫した野菜等はその場で簡単な調理をして新鮮なまま食べたり、先ほど報告しました「てがるにクック・おやつ」の具材としても使用しました。またゴーヤを使った緑のカーテン作りも行い、環境問題について考えるきっかけとしました。

小区分が「養成事業」です。

まず「手話にチャレンジ」です。1講座を5回にし、各学期に1講座ずつ合計3講座実施しました。今後も参加しやすい仕組みを考えると同時に、手話を楽しみながら身につけられるよう内容を工夫してまいります。

次に「チームぐんぐん」です。こちらはリーダーシップを発揮できる人材を育成することを目的に、3月までの年間を通して実施する事業です。キャンプや研修などの行事の企画・立案から本番を経てふりかえりまで、子どもたちの手で責任を持って行いました。

次に小区分が「学習支援事業」になります。

まず「学習会」です。チャレンジという名称で週1回金曜日の午後4時30分から行っています。

次に「自習室の提供」です。朝9時から夜の9時まで、15歳以上の方が利用しています。単なる自学のスペースとして開放するだけでなく、青少年クリエイティブセンターのさまざまな活動に協力してもらっています。

次に「パソコンクラブ」です。2学期と3学期に1講座ずつ年2講座行っています。小学1・2年生のクラスと3年生以上のクラスに分けて行い、名刺やポストカードなどの創作活動を通じてパソコンの操作方法を学んでいます。また、教室参加者の有志が集り、パソコン教室で覚えた技能を生かして3月に行われた体験活動事業「子どもクラブまつり」においてパソコンでプリクラを作るお店を出しました。

次に「英語教室」です。アメリカ出身の講師の指導のもと、こちらも小学1・2年生と3年生以上のクラスに分けて実施しています。教室では英語を使ってさまざまな遊びをする中で英語を身近に感じるとともに、ハロウィンなどの異文化にも触れる機会としています。

次に「折り紙教室」です。吹田市立市民公益活動センター「ラコルタ」登録団体の「折り紙玉手箱」のみなさんに来ていただき指導をお願いしています。月に一度、季節感のある作品を作っています。

次に「工作教室」です。折り紙教室と同じく吹田市立市民公益活動センター「ラコルタ」登録団体であり、体験活動事業「しめ縄づくり」でもご指導いただいている「エコおもちゃ作り市民塾」の皆さんの指導のもとで夏休みにモーターで動くロボット作りを、2月には参加者それぞれのオリジナルなひな飾りを作り、またひな飾りづくりを通じて日本の文化や歴史に触れ、ひな飾りの由来や雛祭りの行事に込められた思いを知る機会としました。

次に、資料の通し番号4ページ目になります。

次に「まじかるマジック教室」です。子ども劇場でマジックショーをしていただいたマジシャンの方にマジックを教えてもらい、参加者全員がそれぞれ異なったマジックを覚えて、体験活動事業「子どもクラブまつり」で舞台発表を行いました。

次に「ぐんぐんネット」です。月に数回、土曜日を中心に開催しています。バドミントンやバスケットボール、科学実験などを行いました。科学実験についてはア高等学校の先生にボランティアとして関わっていただきました。

次に「子ども劇場」です。異文化に親しむ機会として外国出身の講師とゲームやクイズを楽しむ機会や、マジックショーを鑑賞し、見るだけでなく、実際に道具を触らせてもらったりと多様な芸術や文化にふれることを重視して実施しています。

ここからは大区分「交流の推進」になります。

小区分が「利用者交流事業」です。

「バスケットボール 3 オン 3 大会」です。中学生以上 29 歳までの青少年を対象に、6 組の 21 名の参加がありました。「自分たちの」「自分たちによる」「自分たちのための」大会である、という趣旨のもと企画を行いました。審判やスコアラーなど、参加者全員がチームの垣根を越えて役割を分担し、コミュニケーションを図りながら活動しました。

次に「親子ふれあい体操」です。各学期に 1 講座で年間 3 講座実施しています。マットや平均台、ボールなどの道具を使った運動が中心ですが、絵本の読み聞かせや保護者同士の交流の時間などさまざまな活動ができるようにしています。

次に「すてっぷこっこ～親子であそぼう～」です。1 学期と 2 学期の年 2 講座実施しました。運動会や絵本の読み聞かせのほか、七夕やクリスマスなど季節にちなんだ工作など、3 歳以上の幼児と保護者が一緒に楽しみながら、新しいつながりを作る活動を行いました。

次に小区分が「教室事業」になります。

「剣道教室・柔道教室・バドミントン教室」の 3 つの教室を行っています。スポーツに親しみ、上達することだけでなく、相手や道具、場所も大切に作る心も磨く指導を行っています。

次に小区分が「自主活動支援」になります。

「サークル活動」です。日本拳法、サッカーサークルなどが活動しています。

次に「ファイトクラブ」です。中学生を除く 15 歳以上の利用者が対象になります。青少年クリエイティブセンターの設置目的を理解してもらい、人権について考える機会を設け、差別のない社会を目指す青少年の育成を行う場を持つものです。

次に、裏面、資料の通し番号 5 ページ目になります。

大区分「子育て支援の推進」の小区分「人権講座」です。

「利用者人権学習会」です。新規・更新の利用者だけでなく、保護者にも青少年クリエイティブセンターの設置目的や活動の趣旨を理解してもらうようにしました。また身近なところにある人権問題について考えるきっかけとなるとともに、青少年クリエイティブセンター職員との信頼関係を築くことができるよう、対話を深めながら行う参加型のプログラムを実施しました。

次に「世界に 1 つだけのパン作り」です。地域にある障がい者の作業所イに出かけ、パン作りの体験をしました。パン作りを楽しみながら、作業所の仕事や障がい者について知ってもらうという内容で行いました。

次に「すっきゃねん大阪」です。大阪市生野区のコリアンタウンに行き、現地の音楽や食べ物など異文化に触れることを通じて異国の生活の息吹を感じ、多文化についての理解を深めました。

次に「看護でゴー！」です。緊急時に子どもたち自身でもできる応急処置や寒さをしのぐ方法などを学びました。

次に「素敵に抱っこライフ講座」です。月に 1 回、月曜日に実施しています。抱っこを通したスキンシップの大切さを伝える内容で、抱っこする側とされる側、どちらにとっても負担が少ない抱っこの姿勢を体験しています。

次に小区分「相談事業」です。

「子育て・こころの健康相談」です。臨床心理士の資格を持つ相談員に毎月 2 回、土曜日に青少年クリエイティブセンターに来ていただき、青少年や保護者からの様々な悩みや不安などの相談に応じています。

次に小区分「子どもすこやか広場事業」です。

「くつろぎの場～子育て中の保護者ならびに子ども間の交流～」です。就学前の子どもと保護者が利用登録をするかたちで自由に利用できます。フラフープなどの道具を使って身体を動かしたり、馬の人形やブロック、パズルなどのおもちゃを使ってのびのびと遊んでいます。また保護者同士情報交換をしたり、本の読み聞かせをしたりしている光景も見受けられました。

次に「自主活動等」です。子どもクラブ活動の中で「子どもクラブミーティング」という子ども達全員が集まる場を設けています。子ども達自身で司会者を決め、進行します。「こんなことをしよう」とか「こんなことがあった」など自分が感じたことをみんなに伝えたり、互いの意見を聞く訓練の場です。

次に「体育館、運動広場の利用提供」です。スポーツを楽しむ場として提供しました。

次に「図書とのふれ合い・図書の整備」です。図書事業ということで、図書室の開放や本の貸出しを行いました。整備については、ボランティアスタッフの方を中心にお願いしています。

最後になりますが、大区分「情報提供」小区分「情報収集提供」です。

「きしべの歴史展示室」です。岸部地域の成り立ちを知り、伝統と文化を尊重し、郷土を愛する心を育みます。

次に小区分「広報誌の発行」です。

「広報誌「ぐんぐん」の発行」です。青少年クリエイティブセンターで行っている活動や行事などの情報になります。近隣の小学校と中学校へは全児童・全生徒への配布を行っており、その他市内小・中学校の全校・全クラスに行き渡るよう、毎月約 6,000 部発行しています。

以上で資料 2「平成 28 年度（2016 年度）事業報告」を終わります。

次に通し番号 6、資料 3 の『平成 28 年度（2016 年度）子育てこころの健康相談について』をご覧ください。

子育て・こころの健康相談は、臨床心理士の資格を持つ相談員に毎月 2 回土曜日にセンターに来ていただき、各土曜日に 1 時間の相談枠を 4 枠設けて、青少年や保護者からの様々な悩みや不安などの相談に応じています。

事業実施状況について、資料 3 の下の表、実績値をご覧くださいと、延相談件数につきまして平成 28 年度は 50 件、相談者数は 22 人となりました。相談対象者につきましては、未就園児から高校性までの幅広い年齢となっており、また、平成 28 年度は市外からの方の相談はございませんでした。相談内容としましては、情緒と発達障がいの相談が多くを占めました。

今後とも広報誌だけではなくセンターの利用者やその保護者へもさらに本事業を周知していきたいと考えております。

事務局

次に通し番号 7、資料 4 の『平成 28 年度（2016 年度）事業総括』につきまして事務局よりご報告させていただきます。

お手元の資料の次のページ、資料 3『平成 28 年度（2016 年度）事業総括』をご覧ください。

まず事業の成果と課題についてです。

社会教育施設として教育活動を行うにあたり、①個人が持つ能力を十分に発揮し自己実現が図れること、②人と人との豊かにつながり共生すること、を視点に置いています。そのためには職員や地域のボランティアが支援者となる事業を一層展開し、職員や地域の方々自身が、地域教育のコーディネーターとしての自覚を持つ必要性を感じています。

そこで平成 28 年度は「ぐんぐんネット」の中で、職員が講師・支援者となる「かけっこ教室」を運動広場において実施しました。陸上に関してノウハウのある職員が、走力を高める技術を子どもたちに伝え、各々がタイムの向上を目指すとともに、異学年の参加者が混合チームとなるリレーを行いました。良い結果へとつなげるため、年長の参加者が指揮を執り、話し合いながら走順を決めたり、コミュニケーションを図ったりし、協力することの意義や素晴らしさを共有することができました。

青少年クリエイティブセンターが持つ施設や機能をできる限り生かしていくということと、主催事業を通して子どもたち同士、地域の方々、また職員が日常的なつながりを構築し、多くの関わりの中で子どもたちの人間形成を図っていく、という方向性を持つことができたと考えています。今後も子どもたちの興味関心や実態に即した交流活動や、学習の機会の提供を行い、地域で子どもたちを支え、見守る、地域力の向上に寄与していきたいと思えます。

課題としましては、「手話にチャレンジ」の応募者数に見られるよう、障がい者理解への啓発や教育が不十分である点が挙げられます。障がい者差別解消法施行に伴う合理的配慮への対応を心がけ、障がいを持たれた方も気軽にセンターを訪れ、他の利用者と共に学び、交流できる施設にしていきたいと考えています。また応募者数が少ない事業に関しては、これまでの広報の在り方を見直し、より多くの方が学びたいことを学んだり、体験したりできる場としていきます。

次に職員研修についてご報告します。

人権教育が目指すものを職員が十分理解し、センター運営を組織的、計画的に推進していくため、平成 28 年度は以下の職員研修を実施しました。

大阪こども・青少年施設連絡会の障がい者理解研修に参加しました。大阪府人権総合講座に参加し、人権問題と人権行政の基礎を学びました。児童虐待、認知症等をテーマとした市主催の人権研修に参加しました。すっきゃねん大阪を研修と位置づけ、多文化共生について学びました。

A議長

ありがとうございました。

ただ今資料 1 から 4 まで一括してご報告いただきましたが、ご質問やご意見等がございましたら積極的におっしゃっていただきましたらと思います。

いかがでしょうか。ございませんか。

C委員

岸部第二小学校校長の矢田です。よろしくお願いいたします。

1 点お伺いたします。資料 1 の青少年会館と体育館の利用者数ですが、平成 27 年度に対して平成 28 年度の利用者が増えています。特に青少年会館の小学生で 38%増、中学生で 87.1%増、体育館の小学生で 51.3%増と大幅に増えており結果的に年間で 12.2%増えています。一方で英語教室などの教室事業は若干減少しており、他のページとの整合性でなぜこんなに増えているのかわからなかったのもので、そのあたりの理由を教えていただけたらと思います。

事務局

青少年会館や体育館の利用者数の増加につきましては、子どもクラブ指導員という直接小中学生と活動する職員がいるのですが、平成 27 年度は 1 名欠員となっていた子どもクラブ指導員が年間を通じて 2 名体制となりました。以前働いていた方が復帰し、その方を慕って子ども達が来館したり、2 名体制となったことで来館する小中学生に対してきめ細かいケア等を行うことができたことが大きな要因と考えられます。

また、教室事業につきましては、昨年度は青少年会館の空調設備改修工事を 11 月 12 月に行い、その期間は青少年会館で行っている事業を行わなかったことが影響していると考えられます。

B 副議長

B です。資料の通し番号 7 ページの事業の成果と課題の下から 3 行目ですが、応募者数が少ない事業は広報のあり方を見直しと書いておられますが、今現在何か検討していることがあれば教えていただければと思います。

事務局

例えば手話にチャレンジでしたら、高齢者の方も参加してもらい世代間交流も併せて促進したり、近隣の交流活動館や高齢者いこいの家などでも広報してもらう体制を作りました。他に素敵に抱っこライブ講座では母親向けであったものを祝日開催とすることで父親にも参加してもらいやすいようにし定員まで達するよう改善してまいります。

B 副議長

そういった改善はもちろんなのですが、抱っこ講座を含めた幼児対象の事業について、一年間を通じての在り方を工夫しながら幅広く積極的に展開していく必要があるかと思います。実は私ごとながら孫がいますので、市報でこの講座はこの時間なら参加できるなということを見ておりますので、幅広い事業があればありがたいと思います。

事務局

ただ今 B 副議長よりご質問いただきました点についてお答えいたします。

青少年クリエイティブセンターは乳幼児と保護者の方が集う場所としても利用いただいております。ただ、3歳から幼稚園に行かれる方も増えてきている状況もありますので、対象年齢を下げても2歳ぐらいからの事業を実施することで、世間のニーズに合わせてより多くの方に参加してもらいやすいようにできればと検討しております。

D委員

Dです。運動広場の利用の件でお尋ねします。青少年クリエイティブセンターは青少年施設ということで29歳までの方を対象にしているかと思いますが、例えばゲートボール等で利用する場合、一人でも該当の方がいれば使えるのかどうか、いかかですか。

事務局

ただ今ご質問のございました運動広場の利用についてですが、30歳以上の方が使用する場合等につきましては教育委員会が認めた場合、目的外使用という形で使用していただくことになります。目的外使用の場合は有料にはなりますがご利用していただくこととなります。

E委員

Eです。よろしく申し上げます。

通し番号7ページの資料4の事業総括ですが、事業の成果と課題の下から5行目、障がいを持たれた方と記載している部分です。以前吹田支援学校に勤務しておりました、今現在では障がいがある方という表現を使っておりますので、それが正しいというわけではありませんが障がいが「ある」という表現の方が適切かと思えます。

事務局

E委員より指摘のございました件につきましては、ご指摘の通り障がいがあるという表記に訂正させていただきます。勉強不足で申し訳ございませんでした。

F委員

Fです。今年度は当校の体育館の耐震工事の関係で青少年クリエイティブセンターの体育館を使わせていただく予定となっております。そういった利用の中から青少年クリエイティブセンターの利用につながればとも思いますので、よろしくお願いいたします。

A議長

ありがとうございます。では、他に何かございませんか。

では、次にその他の案件はございますか。

事務局

事務局からはございません。

A議長

その他ございませんか。委員の皆様いかがですか。

それでは、本日予定していた案件を含めて終了とさせていただきたいと思います。皆様ありがとうございました。お疲れ様でした。